

ダンス鑑賞会とワークショップ（八潮市立潮止中学校にて）の報告

幅田 彩加

1月18日（水）八潮市立潮止中学校にて中学校1年生の保健体育（ダンス）の時間に、ダンス鑑賞会及びワークショップを実施した。1校時に中学1年生の2クラスと支援学級クラス、計73名、2校時に中学1年生の3クラス、計103名が参加した。

ダンス鑑賞会では、10分ほどのソロ作品を幅田が踊り観てもらった。体育館を真っ暗にし、懐中電灯を1本使ってシーンを展開。暗闇の中で足音だけを響かせるなどの工夫も取り入れ、鑑賞者の感覚を光や音を使って刺激した。また、多様に变化する身体運動と共に、光や影が描き出す世界は様々なイメージが膨らんでいったと思われる。この鑑賞会は「題名のないダンス発表会」と名付けられており、作品を見る際に題名は一切伝えず、鑑賞後に生徒達が自由につける。生徒達がつけた題名は、スタイリッシュなものから奇想天外なものまでバラエティに富んでいた。今回披露した作

品は、凍った海の中で息絶えていく鯨の姿をヒントに制作したのだが、1名の生徒が「鯨」というタイトルをつけており大変驚いた。

鑑賞会后、ワークショップ「人形動かし～動かすからだ、動かされるからだ～」を行った。二人組で一人が人形役になり、もう一人が動かしていく。現代の子供達は、人の身体に直接触れる機会が稀薄になっていると言われている。相手を乱暴に扱わないように、触れた手から伝わる気持ちや性格、優しさなどに目を向けるよう促しながら、身体への触れ方を探る時間を目指した。

授業の最後に事後アンケートを行ったので、どのような反応が見られたかを今後まとめたいと思う。

この企画は潮止中学校の喜多村麻里先生（H23年度平成国際大学卒業生）のお声掛けから始まった。貴重な機会とご縁に感謝申し上げたい。



ダンス鑑賞「題名のないダンス発表会」



ワークショップ「人形動かし」